

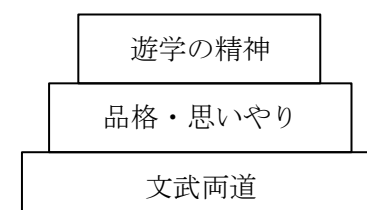
# 2019（令和元）年度学校評価表

遊学館高等学校

建学の精神	何ものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと（遊学の精神の涵養）。 周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること（良妻賢母の育成）。
教育理念	教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。
教育目標	文武に励み、自らの品格を高めるとともに他者の人格を重んずる心を養い、遊学の精神を持って未来を切り拓く人間の育成をめざす。

### 【アンケート調査】

No.	名 称	実施時期	対象	担当部署
1	学校行事アンケート（体育祭）	6月	全校生徒	保健体育科
2	学校行事アンケート（学園祭）	9月	全校生徒	生徒会
3	学校生活アンケート	10月	全校生徒	生徒指導部（主体）、遊学講座運営委員会、1～3年学年会
★ 調査項目：品格、挨拶、愛校心、正義感（マナー）、遊学講座、総合学習（総合探究）の時間				
4	委員会アンケート	10月・2月	各委員会	生徒会
5	授業アンケート	12月	全校生徒	教務部
6	卒業生アンケート	2月	3年生	3年学年会
7	修学旅行アンケート	3月	2年生	2年学年会



重点目標 1. 心身ともに健康な生徒の育成					
重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
① 自らの品格を高めるとともに、他者の人格を重んずる心を養う ○SNSによるトラブル及びいじめの未然防止 ○スクールカウンセラーを配置し教育相談体制を充実	生徒指導部	女子生徒によるSNSのトラブルがあった。 教育相談とカウンセラーが連携し不登校生徒に対応した。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
② 明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	部活動加入生徒の挨拶は良好。 他の生徒においては、高学年になるほど挨拶が出来なくなる。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
③ 正しい頭髪・服装で登校 ○校門指導（毎日実施） ○服装指導期間（定期的） ○服装指導（日常的） ○頭髪指導（月一回）	生徒指導部	女子生徒によるスカート丈の指導が増加した。 頭髪指導においては年々良好になっている。	生活指導通知書の発行枚数を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超		
④ 愛校心を持って校内美化に取り組む	生徒指導部	清掃活動において、積極的な生徒とそうでない生徒の差が大きい。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
⑤ 不注意による遅刻をなくす ○遅刻業後指導の徹底	生徒指導部	遅刻の数は、残念ながら多い。 悪天候時、バスなどの交通機関の遅れを理由に遅刻する生徒が多かった。	遅刻者集計表で10%未満の月数 A 7ヶ月以上 B 6ヶ月以上 C 5ヶ月以上 D 5ヶ月未満		
⑥ 正義感を持って公共のルール・マナーを守る ○自転車マナーの向上 ○バス及び電車利用時のマナーの向上	生徒指導部	金沢駅におけるバス停・バスの乗車マナー、自転車運転マナーの指導が多かった。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		

重点目標 2. 確かな基礎学力を身につける					
重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
① 指導力及び資質の向上 ○研究授業の実施 ○互見授業週間の活性化	教務部 教科会 学年会	ICTの活用を中心とした教科の授業と対話的な取り組みを中心とした授業に分かれたような形で研究授業が行われた。協働的な学びを実践する中でさまざまな課題が見つかった。	ループリック 5 点満点評価（回数・準備・合評会・改善度） A 4.3 点以上 B 3.6 点以上 C 3.0 点以上 D 3.0 点未満		
② コースに伴う教育活動の充実 ○探究活動の充実 ○ICTの活用	教務部	ICTを活用することで視覚からの知識・情報の理解がしやすくなったと評価する生徒の割合が多かった。	授業アンケートの総合評価で、肯定的評価 80%以上の教員の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
③ 学習の基礎基本の徹底 ○好ましい学習習慣を身につけるための指導	教務部	授業態度の状況は前年度に比べ改善された月とそうでない月があったが、最終的に指導された数としては大幅に減少した。	授業態度指導カードの発行枚数を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超		
④ 「総合的な学習の時間」を充実・発展させる (1 年生は「総合的な探究の時間」)	各学年会	1 年学年会 「守破離」をテーマに、手本となる文章を読み、書き写すことで、文章力を上げていった。表現力や語彙力、様々な問題に対する関心などを高めていった。次年度は小論文という形での表現力も高めていきたい。  2 年学年会 1 年次に引き続き、ベネッセの表現レーニングⅡを活用し、グループ・個人での表現学習を行った。3 月には準拠の小論文テストを実施した。多くの生徒が自身の表現力が高まったと感じている。  3 年学年会 3 年生は進路実現に向け、進路ガイダンスや小論文指導、エントリーシートの指導等を行う。また、意見を述べるために必要な表現力を身につけることを目的として、様々なテーマに関して自分の考えを整理し、論述する練習をした。	学校生活アンケート（総合学習）の結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1 年生	
				2 年生	
				3 年生	
⑤ 英語検定受験者の増加と資格取得	検定担当者 (英語科)	結果 合格者 2 級 2 名 準 2 級 8 名 3 級 16 名 総受験者数：135 名 校内受験率：9.7% 合格率：18.5%  受験する生徒が 3 級に集中していた。3 級を合格した生徒が今年度に準 2 級を受検していくように促す必要がある。準 2 級までは勉強をしっかりとさせれば多くの生徒が合格できることがわかった。しかし、2 級はクラスの上位の生徒でも取得が困難なため、十分な勉強量と英検の問題形式に対応した学習が必要であると考えられる。	ループリック 12 点満点評価（受験者数・準 2 級以上の合格者数・取得率） A 10 点以上 B 7 点以上 C 4 点以上 D 4 点未満		

⑥	模擬試験における目標の明確化 ○模擬試験結果のフィードバック	教務部	事前の取り組みと進路への意識をさせていくことが必要。事後の取り組みは各層ごとに指導する必要がある。	D層の割合を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超	1年生	
					2年生	
⑦	図書室利用者数の増加	図書委員会	昨年度円滑な運営が実施できなかったため、今年度は図書室の利用者数の増加を目標に取り組んでいきたい。	利用者数 A 年300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満		

重点目標 3. 広い視野を持ち主体的に学校生活を営む						
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析(成果と課題)
①	主権者教育を見据えた生徒会活動の活性化	生徒会	活性化のための様々な新しい取り組みを企画した。活性化したとはまだまだ言えないが、変化のためのきっかけ作りができた。	委員会アンケート A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
②	本校らしい体育祭・学園祭 ○生徒自身の手で作り上げ、生徒全員が参加し、楽しむことができる体育祭・学園祭を行う	保健体育科 <体育祭>	生徒の満足度は非常に高かった。しかし、安全面において競技でのルール違反があり、けが人が出てしまった。今年度は競技・ルールとも改善し、行う。	体育祭アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
		生徒会 <学園祭>	生徒各々が自ら楽しもうと努力していた。特に大きな事故もなく安全に行うことができた。	学園祭アンケート結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
③	充実した修学旅行を実施する ○事前・事後(プレゼン含む)学習の内容を深める	2年学年会	事前研修、事後研修ともに予定通り実施することができ、生徒は真剣に取り組んでいた。発表会も滞りなく実施することができ、学年掲示板にも掲示した。アンケート結果も肯定評価が圧倒的多数であった。	修学旅行アンケート結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
④	卒業生アンケートを実施し、本校の満足度調査を行う	3年学年会	概ね肯定的評価を得られた。特に高い評価を得られた項目として、進路指導の項目と、行事・特別活動の項目があげられる。	卒業生アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
⑤	遊学講座に積極的に参加し、自分の可能性にチャレンジする	遊学講座 運営委員会	肯定評価 92% 平日の授業では計れない能力を発揮した生徒がいる一方で、成績不振者1名、時数不足者8名が出たことは残念である。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		
⑥	部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部届を整備し、退部者を把握する	特別活動部	5月(1年～3年) 男子:70% 女子:51% 全体:59% 10月(1・2年) 男子:68% 女子:52% 全体:60%	部活動加入率 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満		
⑦	部活動において、県総体等(3年生が出場する最後の大会)での成績上位をめざす 硬式野球(夏の県予選) サッカー(選手権県予選) 駅伝競走(県予選) バトントワリング(全国大会県予選) 吹奏楽(全国大会県予選)	特別活動部	団体競技: 男女卓球部(県1位) 男女駅伝競走部(県1位) サッカー部(県ベスト4)・女子バレー部(県ベスト8) 個人競技: 男女卓球部(県1位)	学校対抗戦において、優勝(県代表)10点、準優勝6点 ベスト4入賞(金賞)4点 ベスト8入賞2点 で換算 A 80点以上 B 65点以上 C 55点以上 D 55点未満		
⑧	学校のグローバル化を推進する	国際交流 推進委員会		シジス校との交流を計画する A 年間6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満		

重点目標 4. 進路指導の充実、特に進学実績の向上					
重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
① 国公立大学合格実績 ○志望校（国公立・難関私大）検討 会議の開催	進路指導部	現役 5 校(5 名)、既卒 2 校(2 名) 合計 7 校(7 名)が国公立大学に合格。	国公立大学合格者数 A 10 人以上 B 7 人以上 C 5 人以上 D 5 人未満		
② 金城大学及び金城大学短期大学部への進学	高大連携 教育推進 委員会	大学への進学者数は 24 名で、全体の 5.0%。 内訳は以下の通り。 社会福祉学部：12 名 医療健康学部：3 名 看護学部：10 名が合格。 ※看護学部 1 名を除く、24 名が進学。 子ども福祉への志願者は、今年度、幼児教育学科にシフトしている。看護学部への志願者が増加傾向なので、早い段階から基礎学力を身につけさせる必要がある。福祉においては、福祉関連の職業の待遇改善などがなければ志す生徒の増加は見込めないと考える。また、金城大学福祉学科の魅力が本校生徒には伝わっていないと思う。大学からの積極的な働きかけが急務ではないか。	全校生徒に対する進学者の割合 <金城大学> A 6%以上 B 4%以上 C 3%以上 D 3%未満		
		短大部への進学者数は 56 名で、全体の 11.8%。内訳は以下の通り。 ビジネス実務：27 名 幼児教育：24 名 美術：5 名 ※56 名全員が入学。 ビジネス実務は昨年度の数字を維持している。幼児教育の増加は、子ども福祉を志望する生徒数が移行したことが理由である。今年度は、学生主体とした本校生徒への魅力の発信や働きかけもあり生徒の反応はとてもよかったように思う。来年度はその点をさらに強化していきたい。	<金城大学短期大学部> A 16%以上 B 12%以上 C 8%以上 D 8%未満		
③ 一般入試受験者数の増加	進路指導部 3 年学年会	一般試験を利用して大学を受験した生徒は、卒業生 475 名中 41 名で、全体の 8.4%に当たる。昨年度 11.4%と比較して、75%に減少。	一般入試受験者（実人数）の割合を昨年度と比較 A 110%以上 B 105%以上 C 95%以上 D 95%未満		
④ 就職指導の充実	進路指導部	就職者（学校紹介・縁故・公務員）45 名全員が就職を決定できた。	就職希望者（学校紹介）の決定率 A 100% B 96%以上 C 94%以上 D 94%未満		

以上